税はライフセーバー

千葉市立幕張西中学校３年　　田中　日和

「火事だ！」父の大きな叫び声で私たちは飛び起きた。二年前の冬。朝七時頃のことだった。どうやら同じ集合住宅の下の家が火事になっていたようだ。気がつくと我が家のリビングにまで煙が充満していた。父は消火活動を手伝うため、煙の立ち込める階段を降りていった。母と私と妹は階段から避難することは危険と判断し、三人でベランダの避難用パネルを突き破った。そして隣の人に助けを求め、隣の階段から避難させてもらった。無事逃げることができて安堵した途端、父のことが心配になった。何度か爆発音が聞こえていたからだ。火事に気づいて約 15 分がたった頃、消防車が到着した。それと同時に父の姿が見えた、父は消火器三本を使って初期消火を行っていたのだ。父は煙を吸って少し喉を痛めていたが、無事で安心した。気づけば消防車七台、救急車二台、パトカー二台が家の前に止まっていた。しばらくして火は無事、鎮火した。火元の家以外に被害が及ぶことはなく、その家に住んでいた老夫婦も救急車で病院に運ばれていった。

その日の夜、ふと窓の外を見るとまた消防車が一台止まっていた。完全に火が鎮火したかどうかを確認しに来ていたのだ。そしてその次の日も、さらに一週間後も、消防車がパトロールしに来てくれていた。そこまで徹底して点検してくれていると知って安心した。父はと言うと、喉を痛めていたため、翌日は仕事を休んで病院に行った。結局、父は二日間仕事を休んだ。

その後消防署によって、父は消火活動に協力した「民間協力者」として正式に認定され、負傷の治療費と、仕事を休んだ日数分の給料が補償されることになった。その全てが税金で賄われているということを初めて知った。思えば、消防車が消火活動をしてくれたのも、何度も見回りに来てくれたのも全て税金で賄われているのだ。もし、これが税金ではなく個人で支払わなければならない有料サービスだったとしたら、お金がない人は消防車や救急車を呼べないということになる。何かがあった時にすぐ一一〇番、一一九番を押せるのは、税金のおかげなのだ。そう思うといかに税金が、私たちの生活の安全や安心に繋がっているかが分かり、感謝の気持ちでいっぱいになった。

税金があるからこそ、私たちは安心して暮らすことができている。私もいつか大人になった時、この時抱いた感謝の気持ちを忘れずに税金をしっかり納めたいと思う。税金は色んな人の命と安全を守るライフセーバーなのだから。